

# 我々は株にどう向き合うべきか

長野県・東海大学付属第三高等学校 3年 山崎 貴大

依然として株式投資を新たに始める人は増えている。投資を本職とする人や、小遣い稼ぎのためとする人など様々だ。中には小学生のうちから株式投資を勧める親までいる。わたしたちの株式投資への自己責任はどうなのだろうか。

わたしは二十歳過ぎまで、株式投資は行うべきではないと考える。自分で責任をとれる自信がないからだ。市場には、わたしたちより遥かに知識や経験のある投資家が群雄割拠している。「誰かが泣けば、誰かが笑う」といわれるように、全員が得をするわけではない。そんな中で知識の浅い人間が得をするのは難しい。なおかつ、わたしたちはまだ親の管理下にある年齢であり、社会的な責任は一部を除いて問われない。失敗の責任は当然、親が被ることになる。これこそまさに、「親不孝」ではないだろうか。

近年、自己責任が希薄になっている気がする。現在、問題となっている「多重債務者」にしてもそうだ。確かに、グレーゾーン金利や契約のあいまいさなど社会側の問題はあった。しかし、借りたのは本人であり、グレーゾーン金利などは前々から指摘されているから調べればわかったことであ

る。多重債務者を責めるわけではないが、やはり知識の浅さが生んだ悲劇としかいいようがない。では、株式投資の場合はどうだろうか。株式投資がここまで普及したのはやはりネット証券の発達にある。しかし、同時に金銭感覚の麻痺も生んでしまったと思う。昔のように手元にお金があり、まさしく「お財布と相談」していた時代ではなく、画面に表示される数字をみて商品を買える時代である。わたしにも経験があるが、通信販売で商品を買うときついつい無駄遣いしてしまうときがある。うまくいえないのだがなんとなく、買ってしまふのである。株式投資も同様に、証券会社にいく必要がなく、キーを叩くだけで株式投資を行うことができる。わたしは投資経験がないのでなんともいえないが、ここに投資したのだという感覚はないように思える。通信販売でさえ、商品が届いてやっと買った気になるのだ。こんなことでは、金銭感覚が麻痺するのも当然だろう。そしてこの麻痺が、自己責任を希薄化していると思う。お金が現物ではなくデジタル化され、あるのかないのかわからなくなっているからだ。

また株式投資の若年化の要因の一つとして、「社会的地位の高さへの憧れ」がある。

堀江氏・村上氏といえば、誰もが知っている。彼らへの憧れが、株式投資を加速させたのは間違いない。わたしは彼らのやり方は好かなかったが、多くの若者は彼らに同調した。氏たちの社会的地位は高い。「富豪」、「セレブ」といわれるように、お金を持っている人の地位は昔から高い。戦争のない平和な国である日本における若者たちの憧れは、「力の強い者」から「お金がある者」に移った。また、「力の強い者」と「お金がある者」は同一視される。わたしは憧ればかりが先走り、責任といったものをないがしろにしているように思える。株式投資はあくまでも企業の発展を願うものであり、金儲けの手段ではない。

では、わたしたちは株にどう向き合うべきだろうか。答えは単純で、勉強して責任を認識することであると思う。わたしは今、学校の勉強を一生懸命行い、社会勉強の一環として株式投資の本を読むなどしている。社会的に十分自立したとされる二十歳まで実際に投資は行わず、勉強し知識を蓄えるつもりだ（二十歳で自立することには、ニート問題などで様々な意見があるがわたしは法令や社会の一般認識として二十歳と考えている）。わたしは、知識を増やすことが自己責任を養うと考えている。ネットで株式投資を行うときの、考えうる様々な問題を知っていれば良く考えた上で投資ができ、

失敗することが少なくなるだろう。また、周囲に迷惑をかけない範囲で行うことが大切だ。失敗しても自分で後始末ができなければならない。

しかし、年齢の若いうちからの株式投資は積極的に社会活動に参加することであり、社会における経済活動を早く理解することにつながる。また、欧米では株式投資の教育は普通であり、経済を早くから理解させる絶好の機会だという意見もある。だが、わたしは株式投資だけが社会勉強ではないと思う。むしろ、株式投資をせずとも経済活動は必然的に行われる。経済を理解する手段など他に多くあるのだ。また、欧米型の考え方が今日の格差社会を生んだという意見も無視できない。

自己責任の希薄化を生んだのは、ネットの普及により金銭感覚が麻痺したことと、社会的地位への憧れだと思う。また、知識が至らない状況で行動してしまうのも原因の一つだ。現在の日本社会は、急速に変化し新しい言葉、問題、考え方が刻一刻と現れてくる。発達した社会の影響であると思うが、そんな中でもわたしたちはより一層の自己責任の認識が問われる。そのため、新しいことをどんどん知識として吸収しなければならない。知識を蓄えることが、自己責任を認識することだと思う。